

木造都市研究会 **木愛の会** 主催

木造都市のルネッサンス

# 木の連歌

シリーズ part 2

木造都市研究会「木愛の会」は、名古屋を拠点に研究会や見学会、提案など、木造都市実現に向けた様々な活動を行っています。会員募集中。

<http://www.kiainokai.net/>

2015年12月の木愛の会総会では、ウィーン工科大学の谷篤子氏に「日本・オーストリアの中高層木質構造の耐火法規比較」についてお話しいただく研究会を開催しましたが、この研究会をスタートとし、木に対する思いを「連歌方式」で語っていただく研究会を開催します。part2は谷氏の大学の先輩である大同大学の武藤隆先生にお話いただくことになりました。

今後も数ヶ月に1回ずつ開催し、様々な講師に木に関する仕事、木に対する思いを伺い、木造都市の実現に向けた議論をつないでいきたいと思えます。新企画「木の連歌シリーズ」にぜひご来場ください。代表世話人 太幡英亮 (名古屋大学)

2016年3月15日 (火)  
18:30~20:00

丸美産業株式会社 会場  
本社5階会議室

名古屋地下鉄桜通線瑞穂区役所下車すぐ

参加申込先 木愛の会事務局  
[kiainokai@gmail.com](mailto:kiainokai@gmail.com)

定員 30名

参加費 学生・会員：無料、一般：1000円

## 武藤 隆氏

講師

大同大学教授

テーマ

### 木を使うということ

安藤忠雄建築研究所で木造としては「木の殿堂」を担当されたほか、「淡路夢舞台」「兵庫県立美術館」などを担当。愛知トリエンナーレ2010,2013の会場構成担当者でもあります。木造・木質化・木化について、今までの経験と最近の関心事や疑問についてお話し頂きます。

**武藤様** 我々が芸大で設計を学んだ時分には、木材と言えば小規模な施設か平屋の架構に使う材料だというイメージでした。その後の実務においては都心の物件で使うには防火法規の規制が厳しく、気になりつつも使える機会の少ない材料でした。私は建築における木の使い方は、土地特有の常識に縛られている部分が大きいのと感じて、日本を離れて研究を始めました。現在は、都市の中での木材の使われ方と付帯する社会的状況を含め、中高層木質構造の耐火法規の比較をしています。研究を通して再確認したのは、木造は躯体の可燃性もさることながら、むしろ使われ方でリスクの頻度が変わると言うことです。また、かつての寺社仏閣のような大規模な計画で技術の向上や新しい使い方を考えて行くことも必要になると考えています。

武藤さんは、今まで木材が使われてこなかった大規模物件の計画を経験されている一方、まちづくりに関わって群としての小規模建築とも向き合われています。両方の視点から、武藤さんの感じられている木材の可能性について伺ってみたいです。谷

### 木を使うということ

